

ホスピタリティAO入試 ホスピタリティ入試 対策講座 第2回

2024年 7月14日

亜細亜大学経営学部

ホスピタリティ・マネジメント学科

教授 那須一貴

ホスピタリティ入試の課題と考え方

ホスピタリティ・ビジネスに関することで、身近で起こっていることや各自が興味を持っていることを題材に考えてみよう。

ホスピタリティ入試の課題

- 4つの課題のうち、どれか1つを選んでください。
- 選び方はご自分で取り組みやすいものを選びましょう。
- ホスピタリティ・マネジメント学科で学びたいと思っているものと必ずしも一致しなくてもかまいません。

課題レポートの内容に正解はありません。皆さんの主張に筋が通っているか、が重要です。

評価のポイント

① 自分の考え方が述べられているか？

「調べたこと」を書くのではなく、「自分の意見・考えとその理由」を書きましょう。

② 自分の考え方の根拠となる「資料」や「データ」が示されているか？

「資料」や「データ」を用意することで、自分の考え方を明確に相手に示すことができます。資料やデータを集めて提示しましょう。現地調査など、自分で集めたデータを示すことも大変効果的です！

課題① ビジネス系課題

①ホスピタリティ・ビジネスに関する課題

ホスピタリティ・ビジネスにかかわる企業、商品やサービスの中から、あなたが興味を持っているものを1つまたは複数選び、その企業、商品やサービスが、多くのお客様に喜ばれ、選ばれる理由について、その根拠を示しつつ3000文字以内で述べてください。

(参考にした文献があれば主なものをいくつか示してください。この部分は3000字には含みません。)

考え方 ① 対象を決める。

① 身の回りにある、ホテルビジネス、ブライダルビジネス、フードサービスビジネス、トラベルビジネス、パッセンジャーサービスビジネス、スポーツビジネスに関する企業や商品・サービスを選ぶ。

(例: ○○ホテル、○○ブライダルが実施している・・・というサービス、○○食品が出している「◇◇」というお菓子、Jリーグの「○○」というチーム、・・・)

考え方 ② 「誰が」選んでいるのか？



高校生？大学生？社会人？ 年齢層は？
どんな趣味や好みを持っている人が選んでいるのだろうか？
どんな時に、それを選んでいるのだろうか？

考え方 ③ なぜそれを選ぶのか



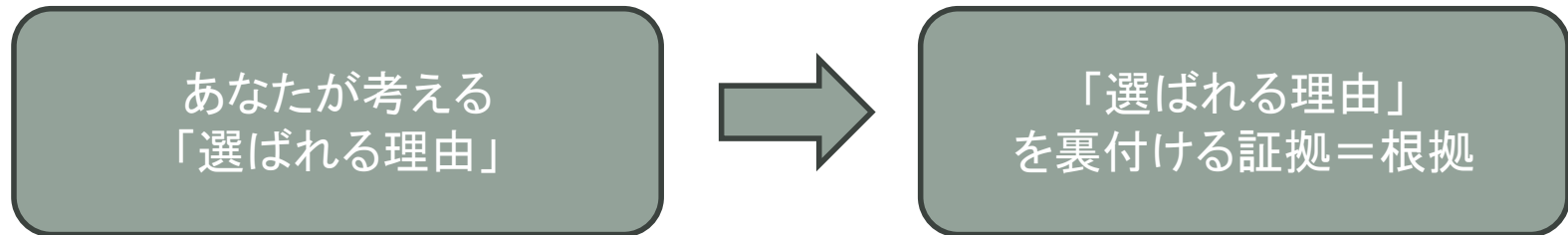
それが選ばれるということは、

- ① 他よりも良い点がある。
- ② 他ではできないことができる。
- ③ 他よりも手に入りやすい。
(金額が安い、どこにでもある)
など、必ず理由がある。

これについて、

「選んでいる人」×「選ぶ理由」
という視点で考えてみる。

考え方 ④ 根拠を示す。



証拠になるもの = 客観性があるもの

- ① 自分で実施したアンケート調査、インタビュー調査
- ② 本、論文、新聞記事など、誰が書いたかが明確であるもの
- ③ これまでに実施されているアンケート調査、インタビュー調査など

証拠にならないもの = 個人的な意見

- ① Youtuberやインスタグラマー、ブロガーなどの個人的な意見
- ② 「私はこう思うから」という思い込み

課題② ホスピタリティ系課題

②ホスピタリティやおもてなしに関する課題

今までに特に印象に残った「おもてなし」について具体的なエピソードを一つ、または複数挙げて、詳しく説明してください。その上で、将来自分が働く上で、どのような「おもてなし」を心がけたいかを3000文字以内で述べてください。

考え方① 自分の軸、基準を決める



① 自分が理想とする「ホスピタリティ」「おもてなし」とは何かを考える。

② なぜあなたはそれを理想とするのか、その理由を考える。



自分の「軸」、「基準」を決める。

考え方② 「軸」と「基準」の視点で分析・説明する



あなたが受けた「おもてなし」について、

- ① あなたが理想とする「おもてなし」が
- ② どのように発揮されていたのかを
- ③ 具体的に分析し説明する。

考え方③ 分析結果を踏まえて、目指す姿を述べる

考え方①と②を踏まえて

あなたが将来働く上で、心がけたい「おもてなし」について、その理由とともに具体的に説明する。



課題③ スポーツ系課題

③スポーツに関する課題

人々がスポーツを楽しむため、様々な人や組織(スポーツクラブ・学校・自治体・非営利組織など)が様々な役割を担っています。これらのスポーツを支える人・組織のうち、あなたが興味を持っているものを1つ取り上げ、その概要、スポーツ界において担っている役割、具体的な業務内容などについて調査し、3000文字以内で述べてください。

(参考にした文献があれば主なものをいくつか示してください。この部分は3000字には含みません。)

考え方① スポーツを支える、身近な組織・人をリ ストアップする



興味のある組織・人で良
いが、

実際にインタビュー調査
ができる組織・人を選ぶと
良い。

考え方② 役割を考えてみる

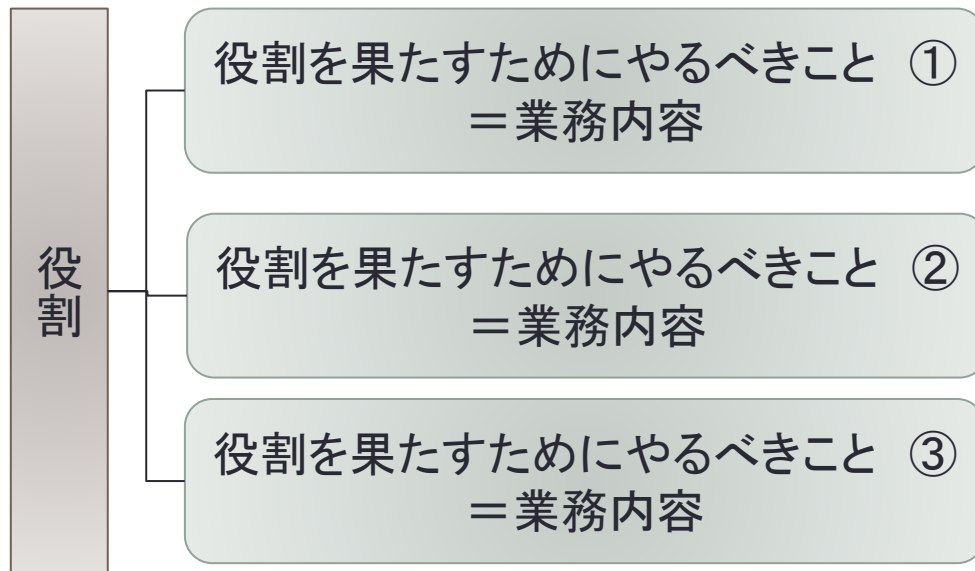
役割があるということは、目的があるはず。

その組織や人の目的と、その目的を達成するための役割について、具体的に調べる。



文献やインターネットで調べるだけでなく、インタビュー調査ができると良い。

考え方③ 業務内容と役割を整理する



注意：役割は一つとは限らない。

- 人々がスポーツを楽しむ社会を実現するために、選んだ組織がどのような役割を果たしていて、具体的にどのような仕事をしているのか(業務内容)、を整理する。
- この調査を通じて、あなたが考えたこと(=より多くの人々がスポーツを楽しむために必要なこと)を述べる。

課題④ トラベル系課題

④観光と地域活性化に関する課題

日本政府は2003年に観光立国宣言を行い、外国人客誘致に取り組んできました。人口減少に伴う地方の過疎化に対しても観光による地域活性化が期待されています。

外国人客または国内旅行客どちらかに対して各地で行われている具体的な取り組み事例を調べ、今後の地方の観光活性化策に関するあなたの意見を3000文字以内で述べてください。

(参考にした文献があれば主なものをいくつか示してください。この部分は3000字には含みません。)

考え方① 観光客を増やす取り組みを調べる



- 来訪者を増やす取り組み
- 観光地で使うお金を増やす取り組み
- 地域の知名度を上げるための取り組み

インタビュー調査をするのであれば、地元や近隣の取り組みを調べると良い。

考え方② その取り組みが効果を上げた理由を調べる



調べるポイント

- ・具体的にどのような効果を上げたのか？
- ・なぜそれが効果を上げることができたのか？

新聞・文献・インターネットを使って調べてみよう。

考え方③ 自分の意見をまとめる



効果が出た具体例とその理由



地方の観光活性化に必要なこと



上記を実行するために必要なこと

調査・研究の進め方

自分で調べ、行動し、考えることがポイントです。

調査の方法

1. 文献調査、インターネットによる調査
2. インタビューによる取材
3. アンケート調査
4. 現地への訪問

「調査」及び「データ収集」のポイント

「調査」のポイント

1. 自分でテーマを設定し、アプローチ方法を決定すること
2. 現状を把握し、分析すること

「データ収集」のポイント

1. 客観的なデータを用いて、状況を分析すること
2. 客観的なデータを用いて、自分の主張を裏付けること

「調査」で注意すること

1. 「見てきたことの報告」にならないこと。
2. 「何のための調査なのか(目的)」を忘れないこと。
3. 「なぜその調査場所を選んだのか」「なぜその人にインタビューしたのか」、その理由を明確にすること。

インタビュー調査のポイント

1. 事前に面談の約束を取り付けておくこと。
2. インタビューを通じて明らかにしたいことを決めておくこと。
3. あらかじめ質問事項を用意しておくこと。

インタビューは「教えてもらいに行く」のではなく、「情報を集めること」と、「自分の考えがズレていないか確認しに行く」と考えておく方が良いでしょう。

アンケート調査のポイント

1. アンケート票はA4で1枚程度にすること。
2. 「自由に書いてください」と質問するのではなく、「はい、いいえ」や「5段階評価で〇を付ける」といった質問の方が答えてもらいやすい。
3. アンケート調査は、「知らないことを教えてもらう」のではなく、「自分の考えがズレていないかを確認するもの」です。

現地への訪問のポイント

1. 事前に訪問する場所について、良く調べておきましょう。
2. 何を見に来るのか、何を調べてくるのかを明確にしてから行きましょう。
3. 沢山写真を撮ってきましょう。
4. あまり遠方に行くのではなく、何度もいける場所を選んでおいたほうが便利です。

文献調査、インターネットによる調査

1. 図書館を利用しよう
2. インターネットを利用しよう

文献調査・インターネット調査で注意すること

1. 個人の「ブログ」や「ウィキペディア」は使わないこと。
2. どのデータを集めれば良いのか、をまず考えること。
3. データの出典を明らかにすること。
4. 集めたデータを説明しただけ、にならないこと。

図書館で集められるデータの例

1. 「白書」や「統計資料」

例：観光白書、経済白書、交通政策白書、中小企業白書、スポーツ白書、その他

2. 雑誌や新聞記事

例：新聞社が出版している雑誌や過去の新聞記事等

3. 専門的な本

各自で調べたいテーマに関連した様々な本があります。

インターネットの便利なサイト

- 総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/>

- 国土交通省 観光庁

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/index.html>

- 日本政府観光局 (JNTO)

http://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/index.html

- 経済産業省

<http://www.meti.go.jp/statistics/index.html>

- スポーツ庁

<https://www.mext.go.jp/sports/index.htm>

他にも、国や県など行政機関のHPで統計資料を見ることができます。

最後にもう一度、注意すること。

1. 調べたことを書いただけ、にならないこと。
2. 「自分の主張」が必要です。
3. それを裏付けるためにデータを集める、ということを忘れないようにしてください。

ホスピタリティAO入試対策

新聞記事を要約してみよう

新聞記事を要約してみよう 手順

1. 自分が興味を持った新聞記事を選ぶ。
2. その記事の要約文を書いてみる。
3. ご家族や友達に、その新聞記事について説明してみる。



自分が興味をもった新聞記事を選ぶ

ポイント

- ホスピタリティ産業(トラベル、航空・空港、ホテル、飲食、スポーツ、ブライダル)に関する記事があればベスト。
- そのような記事が見当たらなければ、なるべく身近な内容の記事が良い。
- 記事が長すぎないものが良い。まずは短い記事からやってみよう。

要約文を書いてみよう ①

- ① 見出し、リード、本文を読み、記事全体を理解しよう。
- ② 意味段落に分けて、記事の内容を書き出す。



選んだ新聞記事

…は、…である。

しかし、……

さらに、……が……

したがって、…は……

接続詞に注意しながら、
意味毎に記事を区切り、グループを作る

要約文を書いてみよう ②

- ③ 意味段落ごとに要点をまとめる。
5W1Hに気をつける。
主語と述語、目的語を明確にしながらまとめること。

…は、…である。

しかし、……

さらに、……が……

したがって、…は……

When: いつ
Where: どこで
Who: だれが・どのように
What: 何を
Why: なぜ
How: どのように

接続詞に注意しながら、
意味毎に記事を区切り、グループを作る

要約文を書いてみよう ③

- ④ 要点に基づき、自分の言葉でまとめてみる。
新聞記事の文章をそのまま使わないこと。

ポイント

- 自分の言葉を使う。
- 専門用語は解りやすい言葉に変える。
- 自分の意見は入れない。
- 記事の構成の順番は変えない。

ご家族や友達に記事を説明してみよう

- 解りやすい言葉で、自分の言葉で説明する。
- 1分以内で、簡潔に説明する。
- 主語・述語・目的語を意識して説明する。



次回の予告

ホスピタリティAO入試・ホスピタリティ入試対策講座（各回 45分）
（会場と時間は当日までに確定し、HP等でご案内します）

6月16日（日）： 入試に向けた準備を始めよう

7月14日（日）： ホスピタリティAO入試：新聞の要約を書いてみよう
ホスピタリティ入試：調査・研究を始めよう

終了しました

8月10日（土）、11日（日）：（両日とも同一内容です）
ホスピタリティAO入試：図表・グラフを読み取ってみよう
ホスピタリティ入試：レポート・報告書の書き方

9月22日（日）： 作文・面接の対策方法
志望動機の書き方
大学生活に向けて、考えておくべきこと

ご清聴ありがとうございます。

合格目指して、
一緒に頑張りましょう！

亜細亜大学経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科
教員一同